

- 2面 IBF 軍事行動区域委員会
〈国際局〉
- 3面 殉職船員慰霊祭&
海上航行安全祈願祭 〈九州関門〉

船員しんぶん

◆ホームページアドレス <https://www.jsu.or.jp> ◆Eメールアドレス kaiin@jsu.or.jp
全日本海員組合発行第3091号(昭和25年8月24日第三種郵便物認可)

2025年(令和7年)
7月15日
本紙は毎月5・15・25日発行

〒106-0032 東京都港区
六本木7丁目15番26号
全日本海員組合本部
発行人 齋藤 洋
TEL 03-5410-8329
FAX 03-6910-5339
定価1部50円
(組合員の購読料は組合費に含む)

北海道

小樽市立稲穂小学校

学び舎 船と船員さん教室

小学5年生32人の児童が船の仕事体験

6月27日、小樽市教育委員会庁舎内小運動場で、北海道地方支部主催の出前授業「学び舎 船と船員さん教室」を開校し、小樽市立稲穂小学校5年生32人が参加した。

本授業は海事思想の普及を目的とし、わが国の将来を担う子どもたちが、船や船員に興味を抱き、一人でも多く船員職業を志してもらえるよう実施している。国立小樽海上技術短期大学校をはじめとする各関係機関の協力のもとに、国立小樽海上技術短期大学校の施設で、操船シミュレーションやチャートワークなど、通常の出前授業では体験することができない充実した内容となった。



操船シミュレーター

「ネットワーク教室」の各プログラムがスタートした。

▼船員さんのお話教室

津軽海峡フェリー株式会社の山崎主職場委員がプロジェクトを活用し、船の種類や船員の仕事などについて、児童がわかりやすいようにクイズ形式を取り入れて、説明を加えながら幅広く紹介した。児童は正解するたびに喜びの声を上げていた。

▼操船シミュレーター教室

小樽海上技術短期大学校で所有しているシミュレーター2台を用いて、東京湾などさまざまな海域での操船を体験した。児童は歓声を上げながら、初めて体験するシミュレーターを楽しんだ。

▼VRゴーグル体験

VRゴーグルを使用して、カツオ一本釣りの漁業の映像を見た児童は「海が青くてキレイ」とか「大きなカツオがたぶん釣れてスゴイ」など、初めての体験に心を躍らせた。

▼ロープワーク教室

実際に船員の業務で使用されるロープの結び方に加え、日常生活で役立つ本結び・巻き結び・もやい結びを体験した。児童たちは初めて触る船のロープに戸惑いながらも一生懸命に真剣な表情でしっかりと結べるよう何度も挑戦していた。

▼チャートワーク教室

航海する上で欠かせない海図(チャート)について説明が行われ、練習用海図と海図用三角定規を使っ



平岡英彦中央執行委員



黒田崇司校長
(国立小樽海上技術短期大学校)



迫俊哉小樽市長

ての作業を体験した。児童は三角定規の大きさに戸惑いながら、海図を使って船の位置を求める問題などに取り組んだ。

最後にクイズ大会

全てのプログラムを終えて体育館に集合し、グループ対抗の授業を振り返るクイズ大会が行われた。正解するたびに大きな歓声があり、優勝したグループに景品が手渡され、クイズ大会は大いに盛り上がった。最後に児童代表から、出前授業への感謝が述べられた後、児童一人ひとりに記念品が配布され「学び舎 船と船員さん教室」は終了した。



VRゴーグル体験



チャートワーク教室



ロープワーク教室



国際局＝発信

IBF 軍事行動区域委員会を 開催

Warlike Operations Area Committee = WOA

IBF軍事行動区域委員会(WOA)とは、IBF協約(非居住特別組員に適用されるIBF承認協約の一つ)に定められる、軍事行動区域やハイリスクエリア、拡大リスクゾーンなどを設定する委員会。IBF協約の枠組みにおいてこれらの危険な海域などを国際労使で確認し、就航する船舶に乗船する船員の権利や労働諸条件について、国際船員労使・IBF(国際運輸労連)およびJNG(合同交渉団)で協議する場となっている。

協議開催の経緯

J(国際船員労務協会)などから選出されている。

IBF側の交渉委員には、IBF船員部会議長や主要な船員供給国、受益船主国から選出されるIBFハイレベルオフィサーから選出されている。一方で、使用者側交渉委員は、IMEC(国際海事使用者委員会)およびIMMA

協議の概要

委員会の冒頭、IBF側から協議開催申し入れから日数

が経過しているものの、要求内容には変更がないとし、JNG側の見解を求めた。

JNG側からは、当初開催に向けた日程調整を行っていたときに比べ、当該エリアの緊張が格段に緩和していること、当該エリアにおける船舶保険料増額などの事案は発生しておらず、実際被害にあった船舶なども存在しないことなどを理由に、IBF要求趣旨は理解できるものの、本日時点で直ちに軍事行動区域として設定する必要性は認められないが、状況の変化が見られた場合は、早急に本委員会を開催し、あらためてエリアの設定について協議したい旨の回答がなされた。

この回答を受け、IBF側から当該エリアについて、現状は比較的稳定しているが予断を許さない状況であることも事実である。今回の委員会開催に時間を要し、タイムリな労使協議が行えなかったことについては遺憾で、改善の必要があると認識しており、今後の緊急時における委員会開催については、双方の出席委員数を絞り(双方最低2人、3人でも開催可能とする)、緊急事案発生後24時間以内の会議開催を目指したい旨をJNGに提案し、JNGがこれを了承した。

今般の協議において、軍事行動区域の指定には至らなかったものの、今後、情勢に変化が見られた際には、可及的速やかにWOAを開催することを国際労使で確認し委員会を終了した。

小樽地区

全国発信記事

漁船組合員大会 & 海難防止の安全衛生講習会

北海道
地方支部
＝発信

伊藤保夫小樽機船漁業協同組合代表理事組合長

高橋健二中央執行委員

6月21日、小樽港湾センターシーサイドインの大会議室で、令和7年小樽地区漁船組合員大会および安全衛生講習会を開催し、組合本部から高橋健二中央執行委員、北海道地方支部の執行部と現場組合員36人が出席した。

漁船組合員大会の前に、船員災害防止協会北海道支部と小樽地区支部の主催で安全衛生講習会を開催し「海難統計を踏まえた海難防止対策」をテーマに講習を行い、道内の漁船による事故発生状況や事故事例、事故防止対策、救命胴衣着用の重要性について理解を深めた。

次に漁船組合員大会を開催し、はじめに山崎秀和北海道地方支部長があいさつし、続いて高橋健二中央執行委員から北海道の漁業情勢と後継者

確保・育成の課題に触れたあいさつが述べられた。

また、来賓を代表して、伊藤保夫小樽機船漁業協同組合代表理事組合長から、無事に操業を終えたことに対する謝辞と来期の操業体制について船主会の考えが述べられた。

議事に入り、池上幸太北海道地方支部副支部長から報告事項として、支部活動の概要、道内沖合底曳網の現状などについて報告を行った。

続いて、水産部門の活動方針と令和7年度労働協約改定交渉の進捗状況などが報告され、組合員からは▽海技免許講習について▽機関部作業手当てについて▽休漁中の賃金について―などの質問があり、執行部との質疑応答で理解を深め、組合員大会を終了した。

釧路沖合底引き網漁船

全国発信記事

秋漁までの休漁期間に 各船が入渠し 漁具整備・英気を養う

道東支部
＝発信

釧路沖合底引き網漁船全9隻(6社)は、1月からの春漁を5月末で切り揚げた。各船を担当する道東支部は、訪船を行い、労働協約改定交渉の経過を報告し現場組合員と意見交換を行った。

各船はこれから約3カ月の休漁に入り、9月1日から始まる秋漁へ備え、船体整備のため造船所へ上陸・入渠し、網をはじめとする漁具の整備に入った。

毎年、休漁期間中には船員保険北海道健康管理センターによる健康診断が実施されるほか、各親睦団体の総会、研修旅行や各社・各船の慰労会、バーベキューなどが行われ懇親を深めている。

秋漁が始まるまでの休漁期間は健康に留意し、リフレッシュして英気を養ってほしい。



海上航行安全祈願祭

殉職船員慰霊祭& 海上航行安全祈願祭

全国発信記事

九州関門
地方支部
＝発信



殉職船員慰霊祭

平和な海を次世代へ

7月2日、梅雨も明け爽やかな天候に恵まれる中、北九州市門司区の真光寺で、殉職船員慰霊祭が厳粛に執り行われ、海事関係者35人が参列した。

慰霊祭では主催者を代表し、松本順一九州関門地方支部長が「海洋国家日本の平和と繁栄は、わが国の復興を支えた海運・水産業をはじめ、その職に殉じ海に散った戦没船員の尊い犠牲の上に築かれたものである。かけがえのない家族を失った深い悲しみに耐え、幾多の困難を克服してきたご家族のこれまでの苦労

と心情に思いを致し、改めて哀悼の意と深甚なる敬意をもって、不戦の誓い・恒久平和の誓い・平和な海を次世代にしっかりと継承し、戦没・殉職船員の安らかな眠りを心からお祈り申し上げる」とあいさつした。

続いて真光寺住職の読経・導師焼香の後、中村浩美九州運輸局福岡運輸支局長と佐藤元洋西部海難防止協会代表理事から追悼の辞が述べられ、参列者全員が焼香を行った。

この慰霊塔は1592年、豊臣秀吉の乗船する船が関門海峡入口で座礁し、その責任をとって自刃した船奉行「明石与次兵衛」を慰霊する塔で、細川忠興が与次兵衛の死を悼み、関門海峡を往來する船舶の安全を願って海峡の岩礁に建立したものを、1955年に海難守護神として公園内に再建した。

海上航行安全祈願祭では、松本順一九州関門地方支部長のあいさつの後、谷延正夫門司区長と喜志多健史門司海上保安部長があいさつを述べて、御祈祷と玉串奉奠が行われた後、参列者全員で船舶の安全・港の発展を祈願した。

釧路・海の月間行事

全国発信記事

道東支部
＝発信

海岸清掃で 海の恩恵に感謝



7月1日、涼しい北海道も夏を迎え、気温24度の快晴の下、釧路・海の月間実行委員会が主催する海岸清掃が行われた。これは釧路市で行われる毎年の海の月間恒例行事となっており、四面を海に囲まれた日本で生活する私たちと、密接に結びついている港や海岸を清掃することで、海の恩恵に感謝の意を示そうというもの。

当日は実行委員会会員の20の団体や企業から約170人が参加し、釧路港西港区第4埠頭西側防波堤付近で清掃を行った。今年もマイクログラスタックの原料になるペットボトル、コンビニ弁当箱、発砲スチロールの漂着物が多く、釣り具、空き缶など約1トンのごみを回収し、海の恩恵に感謝した。



2025年7月15日

中央選挙委員会 議長 齋藤 洋

第40期全国委員の資格喪失告示

一、次の者は、規約第47条A項8号により、全国委員資格を喪失したので告示する。

《企業区・企業単位》

027 日本郵船 寄木 大輔
035 関東地区内航Bグループ 高柳 健伸
042 商船三井さんふらわあグループ 村松 夢加

第40期全国委員・補充選挙の告示

規約第45条および全国委員選挙規則第25条に基づき、第40期全国委員補充選挙の実施について次のとおり告示する。

一、補充選挙を行う選挙単位と補充定員

《選挙単位コード・単位名》

企業単位 027 日本郵船 1名
企業単位 035 関東地区内航Bグループ 1名
企業単位 042 商船三井さんふらわあグループ 1名

二、補充選挙の実施日程

立候補届出期間 2025年7月15日より
2025年7月24日まで
候補者告示 2025年7月25日
投票期間 2025年7月25日より
2025年8月24日まで

当選人告示

2025年8月25日(予定)

三、補充選挙の被選挙人

(1) 企業区

全国委員選挙規則第25条B項により、補充選挙告示日に補充選挙を行う企業単位に所属する完全資格組合員とする。

四、立候補の届け出

立候補をする者は、全国委員選挙規則付表の一に定める様式に基づく立候補届を担当地区選挙委員会へ提出する。

五、補充選挙の実施に関する問い合わせ先

中央選挙委員会事務局(総務部)

以上



中日海洋少年団が 青い羽根募金活動 を実施

青い羽根募金活動

海の日 ビーチウォーク& クリーンアップ大作戦

全国発信記事

名古屋
支部
＝発信

7月6日、梅雨明けの日曜日、公益財団法人中部海事広報協会と全日本海員組合主催の「海の日・ビーチウォーク&クリーンアップ大作戦」が名古屋港ガーデンふ頭で実施された。

名古屋では7月4日に梅雨明け宣言があり、天候は曇り空で徐々に気温が上昇する中、株式会社ナゴヤシブサリーストグリーン海事株式会社、名古屋汽船株式会社、太平洋フェリー株式会社の組合員とその家族や、中日海洋少年団などの海事関係団体、総勢118人が参加してのイベントとなった。

当日ははじめに、山原始名古屋支部長が「7月の暑い中、集まっていたいただき感謝申し上げます。綺麗な海を子どもたちに残すため、参加した皆さまの理解と協力を願いたい。また熱中症やケガには十分に注意し、清掃活動を行っていただきたい」とあいさつし、清掃活動中も無理をしないよう注意喚起した。

熱中症対策として、参加者全員に飲料水や塩分タブレットなどを配布し、参加者はごみ袋とごみ拾い用トンクを手にして、名古屋港水族館や名古屋臨港緑園の周辺でタバコの吸い殻や、生垣の中に捨てられた空き缶・ペットボトルなどを拾い集め、約1時間後には10袋のごみが回収された。

炎天下のなか、参加者は全員無事に清掃活動を終えて、爽快な気持ちとなり、最後に記念撮影を行い「海の日・ビーチウォーク&クリーンアップ大作戦」を終了した。

海の月間行事

海員スポーツイベント ボウリング大会

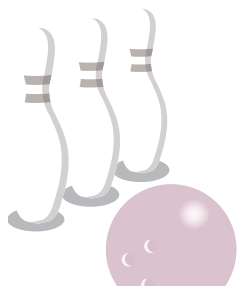
全国発信記事

中・四国
地方支部
＝発信

7月4日、広島市中区の広島ボウルにおいて「海の日」を記念する月間行事「海員スポーツイベントボウリング大会」を開催し、現場組合員とその家族など、総勢19人が参加した。

開会式で主催者を代表して、除補修中・四国地方支部長からあいさつがあり、続いて執行部がルールを説明した後、本番を前に参加者全員で軽いウォーミングアップを行い、熱戦の火蓋が切られて落とした。

ゲームは、各人2ゲームのトータルスコアで競い合うもので、各レーンからは、ストライクやガターのたび、歓喜の声が上がリ、試合は和気あいあいとした雰囲気の中で行われた。またゲーム中は会社の垣根を越えて組合員同士、ボウリングを通じて楽しみな



◆ゲーム結果

- 優勝 武田 裕一さん
- 2位 山崎 裕樹さん
- 3位 岡田 謙治さん
- 4位 今野 侑平さん

から交流を深める姿が見られた。

ゲーム終了後は表彰式を行い、優勝者を参加者全員の拍手でたたえた。最後に公益財団法人中国海事広報協会の板敷副事務局長から閉会のあいさつが行われ、海の月間行事の「海員スポーツイベントボウリング大会」は成功裏に終了した。

小樽地区漁船ボウリング大会

各船チームで 熱戦を繰り広げる

全国発信記事

北海道
地方支部
＝発信

6月21日、ウイングベイオタルボウルで、小樽沖底船主会、沖底船各社の協力のもと、第15回目となる小樽地区漁船ボウリング大会を開催し、現場組合員とその家族など総勢45人が参加した。

競技は2ゲームトータルの個人戦と、団体戦を企画し、ゲームの開催にあたり、主催者を代表して山崎秀和北海道地方支部長が、今期操業に対する労いと、ケガをしないよう注意して楽しんでいただきたいとあいさつした。

続いて執行部からルール説明があり、プレイボールの合図でゲームがスタートし、各レーンで歓声の響き渡る中、各船チームによる熱いゲームが繰り広げられた。

白熱するゲームも、あつというまに時間が過ぎて、ゲー

ム終了後は表彰式を行い、個人団体ともに1位から3位までと、ブービー賞を表彰し、記念撮影を行った。

個人戦優勝は合計スコア331点を出した第57三光丸の山谷圭輔さん、準優勝は新世丸の嶋田巧海さん、第3位は第85日東丸の中村寛行さんとなり、全員の見事な成績にトロフィーと賞品を贈り、参加者全員が拍手でたたえた。

賞品は値上がりしているお米で、参加賞として全員に卵1パックが手渡され、物価高騰の中で食費の手助けとなる賞品は大好評となった。

閉会式では執行部から当イベント参加に対する謝意が述べられ、小樽地区漁船ボウリング大会は成功裏に終了した。